

聖書日課 『からし種』 2023.10.22-10.29

|  |   |
|--|---|
| <p>10月22日<br/>(日)</p> <p>ヨブ記<br/>19章</p> | <p>「わたしは知っている。わたしを贖う方は生きておられ／ついには塵の上に立たれるであろう」(25節)。19章には深い暗闇に呑み込まれたヨブの絶望の呻きが刻まれている。「どうかわたしの言葉がたがねで岩に刻まれ…いつまでも残るように」(23-24節)。その暗闇の奥底においてなお「わたしを贖う方は生きておられる！」と神に向かうヨブの信仰に心打たれる。</p>      |
| <p>23日<br/>(月)</p> <p>ヨブ記<br/>20章</p>    | <p>「悪が口に甘いからと／舌で抑えて隠しておき／惜しんで吐き出さず／口の中に含んでいれば／そのパンは胃の中に入って／コブラの毒と変わる」(12-14節)。悪だくみはどうして口に甘く感じられるのだろう。良くないと頭ではわかっているのに人は悪の罠に簡単に落ちていく。悪に弱い自分を認め「コブラの毒」を見抜く、「罪に対する感性」を主に求めたい。</p>          |
| <p>24日<br/>(火)</p> <p>ヨブ記<br/>21章</p>    | <p>「ある人は、死に至るまで不自由なく／安泰、平穩の一生を送る」(23節)、「また、ある人は死に至るまで悩み嘆き／幸せを味わうこともない」(25節)。「地上の生」はどうしてこんなに不平等なのだろう。ヨブは家族や富に恵まれていた時には気づかなかった不合理の現実を神に問い始める。そしてこの問いはヨブを新しい信仰に導く扉になっていく。</p>              |
| <p>25日<br/>(水)</p> <p>ヨブ記<br/>22章</p>    | <p>「神に従い、神と和解しなさい。そうすれば、あなたは幸せになるだろう」(21節)。「神と和解させていただきなさい。罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました」(第二コリント5:20以下)。神との和解のため「悔い改めよ」とエリファズはヨブに迫る。しかし主イエスはご自身を十字架に捨てて、私たちと神との間に和解をもたらしてくださった。</p> |

聖書日課 『からし種』 2023.10.22-10.29

|                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <p>26日<br/>(木)</p> <p>ヨブ記<br/>23章</p> | <p>「どうしたら、その方を見いだせるのか。おられるところに行けるのか。その方にわたしの訴えを差し出し／思う存分わたしの言い分を述べたいのに」(3-4節)。神と直接顔を合わせて思う存分自分の思いを伝えたい。これがヨブの望みだった。ヨブと同じように神への切実な望みを持つ者たちの「友」となるために、主イエスは私たちの間に生きてくださった。</p> |
| <p>27日<br/>(金)</p> <p>ヨブ記<br/>24章</p> | <p>「なぜ、全能者のもとには／さまざまな時が蓄えられていないのか。なぜ、神を愛する者が／神の日を見ることができないのか」(1節)。ヨブは自らを襲った苦難に深く苦悩する中で、それまで見えてなかった現実社会のさまざまな不条理に目を開かれ、神の愛を問う者とされていく。このヨブの問いに正面から答える方として来てくださった十字架の主に感謝。</p>  |
| <p>28日<br/>(土)</p> <p>ヨブ記<br/>25章</p> | <p>「恐るべき支配の力を神は御もとにそなえ／天の最も高いところに平和を打ち立て…その光はすべての人の上に昇る」(2-3節)。シュア人ビルダドが語った「神の平和と光」は、馬小屋の飼い葉桶の幼子を通して私たちに与えられた。深い暗闇に覆われた世界を照らす光として来てくださった主イエスを一人ひとりが心の中にお迎えし賛美をささげていきたい。</p>  |
| <p>29日<br/>(日)</p> <p>ヨブ記<br/>26章</p> | <p>「神についてわたしたちの聞きえることは／なんと僅かなことか」(14節)。前章のビルダドの言葉に対して、ヨブは「誰の言葉を取り次いで語っているのか。」と批判した。ヨブは神についてわたしたちの知っていることは僅かなことなのだ、と話した。わたしたちには福音書で語られているイエス・キリストを通して神の愛を知らされている。</p>         |